

平成29年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 札幌地区
 2 事例報告学校名 : 札幌市立平岸高台小学校
 3 報告者 : 校長 大牧 真一
 4 キーワード : 体力向上～健やかな身体の育成～



I はじめに

体力低下の要因の一つに、運動する子としない子の二極化傾向などが指摘されますが、本校や地域の実態に即し、課題となることを整理してみました。

- a 時間がない…放課後や休日も、室内遊びや習い事に時間を費やす傾向。
- b 場所がない…地域に広い公園が少なく、思い切り体を動かす遊びができない。
- c 人がいない…一緒に運動する友達が少ない。運動を教え、見守る大人が少ない。
- d 物がない…周りに、手軽に遊べる物が少ない。
- e つまらない…運動の楽しさや体を動かす心地よさを十分に味わえていない。

この五つの「ない」を「ある」「できる」に変えるために、次の視点を大切にしました。

A運動する機会の創出、B廊下やホールなどの有効活用、C専科指導と外部事業・人材の積極的な活用、D既存の資源の有効活用、E体育授業を起点にした運動の楽しさ実感。

II 健やかな身体の育成を推進する五つの具体的取組

1 「健やかな身体育成プログラム」(HPに掲載)の推進 (C/E)

(1) 体育、健康、食指導、性に関する指導の充実

「さっぽろっこ健やかな身体育成プラン」(市教委)に基づき、養護教諭や栄養教諭の専門性を生かし全職員で実践しています。

(2) 体育授業の充実～体育専科指導と準備運動の重視

高学年で専科指導を行い、個に応じた指導を工夫しています。職員研修やどの学年でも参考になる準備運動を発信しています。



2 「チーム学校」による教育環境の整備 (B/D/E)

(1) 遊びを誘う校舎内外の環境づくり

本校では、担任外の職員(校長、教頭、専科指導教諭、養護教諭、栄養教諭、事務職員、用務員、校務助手)による会議を定期的に関き、よりよい環境づくりの検討をしています。

(2) 運動できるものや場の創造

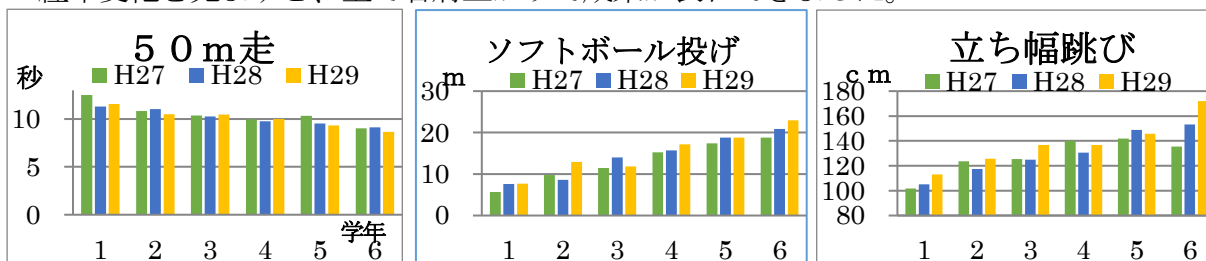
できるだけお金をかけず、再利用、有効活用をする。



3 取組の重点化を図る教育課程の工夫 (A/E)

(1) 新体カテストの実施

全学年で新体カテストを実施しています。発達の段階を踏まえて種目を選択します。全学年共通で実施している種目の3年間の経年変化を見ますと、全て右肩上がりであり成果が表れてきました。



(2) 跳び箱・マット取組習慣

跳び箱やマットは準備・後片付けが大変です。運動時間を十分確保するため、全学年の実施時期を揃え、体育館地域開放をストップし、数週間体育館に設置したままの強化週間とします。休み時間にも取り組むことができるため、運動機会が増えます。



4 家庭・地域との連携による取組 (A/C/E)

(1) サタデースクールの取組

地域のスポーツクラブを講師に様々な運動を取り上げ、子どもと保護者が一緒に汗を流します。運営は地域連携協議会で行います。



(2) 保護者、地域への啓発

掲示板やお便りで取組を紹介し、各家庭で運動が話題となるよう啓発をしています。

地域の方を招き、全児童が昔の運動遊びを体験する「ふれあう会」も開催しています。



5 食指導の推進 (A/E)

(1) 給食残食データの職員全員での共有

給食残量を職員間で供覧し、指導の資料にしています。残量の少なさは全市でトップクラスです。栄養教諭を中心に全職員で取り組んだ成果です。

(2) 栄養教諭による食指導とランチルーム給食の推進

今年度は、「日本の食」指導として「日本うまいもんめぐり」や行事食を取り入れています。さらに、6学年の学活において、「和食を通して日本の食文化を知ろう」の題材で、和食器について学習し、給食時間では、和食器を使用し体験しながら和食を味わいました。



III おわりに

今後は、特に運動機会が減る冬季に、雪玉的当てやスキー山を活用した遊びの他、雪かき・雪わりの要素を取り入れた遊びの試行など、札幌の「雪」や「寒さ」を生かした取組も進めていこうと思います。

子どもの体力向上は、一朝一夕に叶うものではありませんが、学校での体育授業の充実や運動を誘う環境づくりなど、本校のこうした地道な取組が子どもの健やかな身体の成長への架け橋となるよう、一層家庭や地域と一体となって取り組んでまいります。